



右：木々の柔らかな枝葉に包まれながら、ベンチで寛ぐひときは格別です。

左：明るい店内は、気分を軽やかにしてくれます。



戦後の日本を支え続けた勤労と献身の精神。
その原型をも彷彿させる、静かで
確かな営みと自信が鮮やかでまぶしい。
たとえ、どんな時代になったとしても
その揺るぎない夫婦愛と家族の絆が
決して変わることはない……。
新たな挑戦に向けた新天地を探し求め
そこに「終の住処」と「美しい店舗」を構える。
ここから「自分たちの時間」が、いま始まる。

風水店舗を訪ねて

愛知県春日井市 パン工房 七福

父母の代から始めた「家業」を再構築し、昔からの夢を実現する……。
還暦を迎えた今だからこそ、己を知りつくした「新たな工房」を創り上げる。

Q1 「風水店舗・住宅」に出会ったきっかけとは何だったのでしょうか……。

主人の母には馴染みの「気学」の先生がいました。その先生に、何か大きな出来事や問題などがあるたびに必ず相談し鑑定して頂くという文化と伝統が、既に私がこの家に嫁いできたときには、しっかりと「家風」として根付いていました。

親子3代家族全員で住むために自宅を建てたときも、また、先祖代々のお墓を造ったときも先生に相談してから実行するということは、我が家では当たり前の慣習になっていました。私もいつの間にかそういう家庭環境の中で暮らし、育ったせいなのかも知れませんが、「気学」や「占術」などで重要なことを決定することについては何の抵抗感もなかったですし、当然のことだと思っただけを受け入れ生きてきました……。

今回、自分たちが「工房」と「自宅」を併せて建てることになり、私の友人が「風水鑑定士養成講座」の受講生で、彼女に紹介されて松永先生に会いました。その時、初めて「風水環境科学」と出会ったのですが、最初は戸惑うことばかりでした。それまでは、雑誌・書籍やTVなどで「風水」について曖昧な知識しか知らなかったからだと思います。

父母がここ数年の間に相まって他界し、また、気学の先生も既に亡くなられていて、私たち夫婦にとっては昔年の夢であった「自分たちの家」を造る、という計画を母の3周忌が無事終わるのを待つてから取りかかることに決めていました。

初めて松永先生を養老の事務所を訪ねたときの第一印象は今も忘れられません。芸能人のような風貌で、PCを使っているいろと説明してくださったのですが、今まで信じていた「気学」の知識とはまったく違った話をされるので、正直、びっくりしました。しかし、その話の内容はとも興味深く、また論理的、科学的なものでもあった……。

結局、その人柄に惹かれたこといつまでも迷っていてもしょうがないと「腹を決め」、お願いしました。そして、自宅と工場、以前に購入していた国道沿いの小さな土地を併せて鑑定して頂くことになりました。

Q2 実際に「風水店舗・住宅」を造るまでにはどのような変化や体験がありましたか……。

「新しい人生」を60歳からスタートさせるという決断は、今までは疑うこともなくその「しきたり」によって、あらゆることを判断し、決定してきた過程とは大きく違うこととなり、何もかも自分たち自身で決めるという「新しい挑戦」の始まりでもありました。

松永先生とお会いした直後から、不思議なことが次々と起こり始めました。これまで家業を支え続けてきた製パン工場を閉鎖してその土地を売り、その資金で家と店舗を改築しようと考えていたのですが、その工場地を「工場ごと」買いたいという方が現れたのです。

不動産屋さんと相談した結果、工場を更地にし宅地化するにはかなりの工事費用が必要なことなどがわかり、また、工場を壊すとするとその間、製パンができなくなるために1年間ほど休業せざるを得ないこともわかり、途方にくれていた最中のことでした。

「風が吹いてきたな」と感じた矢先、松永先生からの鑑定結果が伝えられてきました。それまで住んでいた家は次男夫婦に譲り、工場直営の売店にでもと思い購入していた土地に新築の店舗と工房を造るという提案でした。自分たちの自宅をどうするかと思っていたところ、その提案には「1階を店舗と工房、2階を自宅」にするという画期的なものでした。

主人は「仕事一筋、職人肌の人」で、以前、工場と自宅が離れていた頃は、ほとんど工場に寝泊まりして深夜の1〜2時頃に作業を始め1日中仕事をしてきた苦勞人です。息子たちは、その父親の背中を見て育ち、「あれだけ働く父は他にはいない」と心底、尊敬してくれていますし、3人共、みな立派な大人に成長したと思っています。私たちは日本がまだ、それほど豊かではない時代に生まれ育ってきたので、息子たちには「自分自身が選んだその道を自由に歩んで行つて欲しい」と願っていました。そして、皆それぞれがその期待どおりに育ってくれたと思っています……。

その主人に今回は少しでも楽をして欲しい、というのが私のささやかな願いであり、楽しみでもありましたが、その夢が設計図には明確に描かれていました。



ゆとりを楽しめる店舗レイアウトとなるような工夫がいたる場所になされています。



パン以外の商品も可愛らしい小物と共に置かれています。

風水インタビュー

FENG-SHUI Interview

「私たちは最高の幸せをもらったな……」とよく二人で話すことがあるのですが、「子供の成長・工場の売却・新築の店舗と自宅」のすべてが上手くいくってくれたことが何よりも幸福を私たちにもたらしてくれました。これも松永先生のご指導と関係者の方々のおかげだと心から感謝しています。

最近、次男夫婦が孫を連れてよく遊びに来てくれます。この家と店舗を見て、今、松永先生に彼らの自宅を新築する相談をしているところです。

人生60年で「還暦」と言いますが、これからは本当の自分たちの時間だという実感がとてもあります。昔から憧れていた「絵画」の勉強に挑戦してみようかなと最近、思っているところです……。